



妄想鉄道で妄想旅行

妄想鉄道「小豆島鉄道」の旅

ふちんかん

小豆島鉄道概要

香川県最大の島である小豆島は、瀬戸内海の中では淡路島に次いで2番目に大きな島である。島は醤油・そうめん・オリーブの生産が有名であり、観光業も盛んである。島には平地が少なく集落が散在する形となる。

(以下鉄道関係はすべて妄想)

小豆島鉄道は、大正10年に散在する集落と港をつなぐために開業した。島の外縁をなぞるように一周する計画で、まず人口の多い南部を結ぶ「南線」が営業開始。その後、昭和初期に「南線」から分岐して「北線」が大部まで・「東線」が福田まで開業した。最終的には「北線」と「東線」がそれぞれ延伸して一周鉄道となる予定だったが、資金繰りのため用地買収すらできないまま昭和を経た。その間、特産物の貨物輸送や住民のあしとして活躍し、島のシンボルである花崗岩とオリーブを表すクリーム色と緑色の電車は「しまてつ」と親しまれていた。

しかしモータリゼーションの進行や島の人口減少などにより経営は年を追うごとに悪化、平成初期には「北線」が廃止となった。この段階で一周鉄道の夢は絶たれた。以降30年以上、「南線」と「東線」の営業は続けられていたが、このたび存在感が希薄な「東線」の廃止がアナウンスされた。同社が運営するバス会社がほぼ同じ区間を結んでおり、鉄道の廃止に伴いバスが増便されることも同時発表されていることから住民からの反対は無いようである。

今回、この「東線」の終点である福田から島に入り、西に向かって全線乗車をしつつ、沿線の観光地を紹介しよう。

姫路からフェリーに乗る。瀬戸内海の多島海を眺めながら100分の船旅だ。

小豆島鐵道 路線図





妄想旅行



福田港・小豆島鉄道「東線」

到着した福田港の正面に小豆島鉄道「福田駅」があり、駅前ターミナルには食堂やお土産屋さんが並ぶ。福田駅は延伸を考えた構造になっており、実際に多少の路盤と線路はある。しかし前述のように、この先延伸することはおろか、この駅そのものも近々廃止の予定である。

今回は「しまてつ・しまばす」フリー切符を利用する。系列のバス路線にも乗れて2日間1500円とリーズナブルな切符である。

今回廃止がアナウンスされた「東線」は、福田駅から「南線」安田駅を結ぶ。安田駅ではY字型に「南線」に接続する形なので、そのまま終点の坂手駅へ直行できるが、すべての列車は安田駅止まりである。つまり「東線」は独立した運用になっている。車両は旧型の単行が1時間ごとに往復している。この区間は平地が少なく、トンネルと崖の連続であり、めぼしい見どころもなく20分で乗車完了である。福田からの乗客はわずかであり、唯一の途中駅である岩ヶ谷では乗降がなかった。これは廃止やむなしという感じである。平行するバスも25分ほどで同区間を結んでおり、本数は列車のほうが多いのだが、バスの方が細かく止まる分、使い勝手が良いだろう。

マルキン醤油記念館

安田駅で「南線」に乗り換え一駅先の苗場駅で降り、5分ほど歩いてマルキン醤油記念館を見学する。小豆島では400年も前から国内産の丸大豆と小麦で醤油造りを続けているとのこと。マルキンは後発で100年余りの歴史ではあるが、知名度はナンバーワンである。ここではうっすら塩味の醤油アイスをお勧めする。



苗場駅に戻り、もう一駅乗ると終点の坂手駅である。坂手も福田と同様に港町であるがはるかに賑やかな雰囲気である。坂手港は小豆島の東の玄関口として、神戸港・高松東港と一日3便ずつのフェリーの発着がある。坂手駅はフェリー乗り場と一体化しており、貨物輸送が盛んだったころは、列車ごとフェリーに積める構造だったらしい。



福田港



福田駅前で食べた「あなご飯」



東線の電車
お客さんはほとんどいなかった



マルキン醤油記念館



酒造りとほぼ同じ



坂手港



テーマコラム



二十四の瞳映画村

坂手港からバスで15分で到着。ここは瀬戸内海を見渡せる海岸沿いに『二十四の瞳』の映画で使用された木造校舎や家屋を移築し、昭和初期の集落を再現したノスタルジックな雰囲気漂うテーマパークである。木造校舎は見るだけではなく廊下や教室に入ることができる。木とワックスと埃の匂いが印象的であった。

ここから「南線」のオリーブ公園へ渡し船で出ているのだが、強風のため運休とのこと。舟代が500円かかるが、坂手港に戻るより時短効果が大きく期待していたのだが…。

気を取り直して坂手港に戻り、「南線」全線乗車へ西に進む。

紹介が遅れたが、メインの路線である「南線」は、2両編成のワンマンカーによる30分おきの運行である。昼間であったが、そこそこ乗客もおり、「東線」との対比が著しい。

オリーブ公園

安田駅を通り越して2つめの駅、オリーブ公園駅で下車し、山手に進み、駅名の由来である「オリーブ公園」を散策する。オリーブは、小豆島が日本での栽培発祥の地であり、100年以上の歴史がある。香川県の県花・県木にも指定されている。オリーブオイルは醤油・そうめんとともに小豆島の特産品であり、人気のお土産である。

この公園は瀬戸内海を一望できる高台にあり、2000本のオリーブの木々に囲まれた芝生広場を中心とした公園である。大きなギリシャ風車や「魔女の宅急便」のロケセット、レストラン、温泉施設、道の駅などがある。魔女のハウキのレンタルがあることで有名で、ハウキにまたがって必死になってジャンプをして撮影する光景が見られる。

駅に戻り、土庄行きの列車に乗る。途中の高校前駅の近くに、以前は東洋一を誇る大孔雀園があった。昭和45年の開業で、クジャクの飛行ショーが出色のイベントであった。一時は年間15万人の集客を誇ったものの、その後入場者が減っていき、平成20年に閉園した。

土庄付近

「南線」の起点である土庄駅まで乗車、これにて小豆島鉄道の全線踏破である。土庄駅も港直結の駅である。小豆島は大きな集落＝港という構造になっていることと、貨物を島外へ積み出すことを考えると、おのずと鉄道の駅は港に寄せた形になるのだろう。



上2枚 映画村



「南線」の電車



オリーブ公園モニュメント



こんな感じに撮影できればベスト



大孔雀園のクジャク



妄想旅行



土庄港は、小豆島最大の港であり、高松・岡山への玄関口である。高松へは1日15便、岡山へは8便、どちらも約1時間の船旅である。しかし高松港へは30分余りで着くジェット便も16便運行されており、高松港は街の中心地にあることから買い物客などはほとんど高松へ向かう。



土庄港

一駅戻って、オリーブタウン前駅で降り、世界一狭い海峡としてギネス登録されている土渕海峡を見学する。この海峡は小豆島の西の部分（前島）と本島の間であり、もっとも短いところでは10mを切っており、そこだけ見ると運河のように見える。ただ前島と本島は一カ所も自然には繋がっていないので、やはり海峡で間違いないのだろう。



土渕海峡

この日の宿泊は、オリーブタウン前駅から徒歩5分の小豆島国際ホテルである。このホテルは近くにある弁天島との間の砂州（エンジェルロード）を見下ろす場所にあり、半日滞在すれば潮の干満でエンジェルロードが現れたり消えたりするところを見ることができる。夕食はバイキング形式で「そうめん食べ放題」というのが小豆島らしいところか。



小豆島国際ホテルとエンジェルロード

小豆島一周の旅

2日目は走行写真撮影と島一周の旅。朝一番で土庄駅から多客時にしか走らない臨時急行に乗る。この列車は南海電鉄から譲り受けたズームカーを改造しており、クロスシートの3両編成である。高校前や病院前といった平日の利用客の多い駅を飛ばし、大きな集落や観光地のみ停車する（1ページの路線図の■の駅）。滅多に走らないレア電車として鉄道ファン的には乗っておきたいし写真も撮っておきたい車両である。この列車を終点の坂手駅まで完乗し、撮影のため草壁駅まで戻った。海沿いの目星をつけた地点で待ち構え、土庄駅で折り返して来た列車を撮影した。



臨時急行電車

安田駅から乗り換えて福田駅まで。「東線」最後の乗車である。次に小豆島を訪れるときにはなくなっているであろう。

福田駅からはバスで北部の海岸沿いを進む。もしこの区間が完成していれば、小豆島一周鉄道が完成していたのだが。



残念石

周囲は花崗岩の切り出し現場が多く、崩された山が痛々しい。大部港のある大部から西に進むと、大阪城築城の際に切り出されたものの現場や運ばれなかった「残念石」などが展示してある大阪城残石公園がある。

このあとオリーブタウン前駅に戻り、土庄まで一駅乗って、土庄港から岡山新港行きの船に乗り今回の小豆島の旅を終えた。